



技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター春季号＜第51号＞(平成14年3月15日発行)

巻頭言

「日本人よ胸を張りなさい」

九州支部顧問 水上 信照 (建設・福岡)

「日本人よ胸を張りなさい」これは、台湾人作家、蔡焜熾（サイ・コンサン）氏著「台湾人と日本精神」のサブタイトルである。同氏は、司馬遼太郎の「台湾紀行」のガイド役として、「老台北」「ラオタイペイ」の愛称で登場する人物である。同書は感謝の日本統治時代、暗黒の蔣介石統治時代等、知られざる台湾の眞実と、日本人が失った「日本の心」を赤裸々に語ったものである。

蔡さんは、昭和2（1927）年、台湾中部都市清水に生まれ、同20（1945）年1月、少年航空兵として、岐阜陸軍航空整備学校に入校が決まった。輸送船「吉備津丸」では、少尉任官で上京する李登輝（京大卒・元総統）と同船されたと云う。

8月、敗戦、2年後悲劇の2・28事件が起る。2個師団の中国兵による無差別殺戮（白色テロ）では、医師や、弁護士、学者などの知識層が次々と逮捕され、裁判もなく処刑されていった。犠牲者は、3万とも5万とも言われている。台湾の人々の受難50年の始まりである。

蔡さんは、昭和43（1968）年10月、社用で戦後初めて日本の土を踏み、先づ最初に靖国神社に参拝し、祖国に殉じた二百数十万の英靈に鎮魂の祈りを捧げた。台湾人戦没者二万七千余柱の中には、尊敬する李登輝氏の実兄も合祀されていると云う。

明治28（1895）年、日清戦争後、台湾が日本に割譲され、初代総督樺山資紀は、東京音楽学校長（仰げば尊しの作曲者）伊沢修二を学務部長として迎え、芝山巖学堂（小学校）で、台湾人を日本国民同胞として遇する「内地延長主義」「混和主義」の教育行政を行った。その後の台湾統治の精神的根幹をなすものである。

第4代総督兒玉源太郎は、後藤新平（東京市長、初代満鉄総裁）と共に、阿片問題解決、ゲリラ帰順、インフラ整備、製糖事業など、矢継ぎ早に近代化政策を実行した。台湾経済は急速に発展し、明治38（1905）年以降、台湾は日本政府からの補助を受けず、財政的基盤を確立することが出来た。

第7代総督明石元二郎は、台湾総督庁舎、日月潭水力発電事業、台湾新教育令等の諸事業を行った。日本の歴代の台湾統治は、欧米列強諸国の植民地経営（愚民化政策）とは全く異なるもので、世界史上他に類例をみない。

台湾人がもっとも尊ぶ日本統治時代の遺産は、ダムや鉄道など物質的なものではなく、「公」を顧みる道徳教育など精神的遺産である。

蔡さんは、次のように語りかけている。『近年、台湾ではこれまでの国民党主導による反日教育が改められ、新しい歴史教科書「認識台湾」によって、日本統治時代を正しく評価する歴史教育が始まった。ところが日本では、自虐史観という「虚構」が、日本人から自信と誇りを奪い去り、「自信喪失国家」につくりかえてしまった感がある。祖先への軽蔑と他人を憎悪する卑しさだけで、自分の国を愛する心は育たない。

かつての祖国、日本の若者達よ、あなた方の先人達は実に立派であり、いまも台湾の地で「日本精神」「リップンチェンシン」が崇拜されている事実の語るところを君達の後世に伝えられよ。日本人よ目覚めよ。そして自分の国を愛せよ！　日本人よ胸を張りなさい！』

1人でも多くの方の入会をお勧め下さい

私の提言

雑 感

九州技術センター 理事 津城 正（建設・福岡）

毎日の散歩

私の趣味は、①囲碁、②テニス、③ゴルフであります、最近はテニスに熱中しています。

数年前にテニスで度々ケガをするので、テニスを続けるためには毎日の散歩が欠かせないことが分かり、それから続けています。

散歩コースは、鳥たちで賑わう森林と池に囲まれた自然豊かな太宰府市民の森（生活環境保全林）であります。このコースを約1時間急いで歩きます。以前の散歩は健康のみを目的にしていましたが、下記の光景に遭遇して以来、自然の移り変わりと接する楽しさが加わり、私の活力源となっています。

ある光景とは、私は少年時代のメジロ取りの経験から、ヒヨ鳥はメジロを苛めることしかないと思っていたが、私が冬の寒い朝に見たものは、ヒヨ鳥が凍死寸前のメジロを抱いて暖め、私が近づいても逃げようともせずに、メジロをしっかり守っているではありませんか。この光景の感動は一生の思い出になりました。

最近最も気になること

最近のわが国において、最も気になることは、「日本はいったいどうなったんだろうか」ということであります。このことを少しでも理解したいと考え、いろいろな書籍を読んでみました。しかし、残念ながらこの問題は、現在国をあげて取り組んでいるものであり、政治・経済をはじめ教育や生活・習慣等の文化に至るまで、広範囲に関係しており、私などに深い理解は無理がありました。

しかし、心の安寧を得るために、整理しましたので、紙面の都合もあり、ほんの一部を報告します。

1. 「失われた10年」の発生原因や反省

・日本はバブル経済の進行中に、日本型経営が賞賛

を受けていた。しかし、グローバル経済に枠組みが変わってしまったのに、いまだ高度成長期の感覚を捨てきれずに行き詰った。

- ・日本型システムは、工業化社会には最適であったが、ポスト工業化社会では、ソフトウェア作りが苦手な日本は不向きである。

- ・プラザ合意後の円高（物価高）による高コスト構造が原因で、日本は国際競争力を失った。

- ・日本の組織は、横並び・身内主義を重視し、オープンな議論を避けてきた。その結果、評価制度が停滞し、自由・透明・公正な市場経済への移行がおくれた。

- ・国民1人ひとりが権利を主張し、自立心（自己責任）が少なく、政府依存の体質となった。政府はこれを引き受け、国は借金漬けになった。

2. 「これからの10年」の改革と展望

- ・成果を評価することから活力が生まれる。

- ・転職した人が不利にならない政策をとり、労働流动性を高めることが、社会発展の力となる。

- ・平等な社会とは排除されるもののいない社会であり、市場主義と平等な福祉社会の構築が発展に繋がる。

- ・負け戦は、損害を最小にして秩序ある撤退（小さな政府、規制緩和、市場主義）を行う。

- ・ポスト工業化社会（IT革新とグローバリゼーション）においては下記の矛盾が現れる。

- ① 国家間、個人間における所得格差の拡大

- ② リスクや不確実性の増大

- ③ 自由競争の結果一人勝ちに終わる傾向が増大
なお、特に印象に残った著書は次のものあります。

「改革」の条件 佐和隆光著 岩波新書

時代が変わった 境屋太一著 講談社

平成13年度第5回理事会 概要報告

(社)日本技術士会 理事 小出 剛 (農業・福岡)

1月16日(水)、平成13年度第5回理事会が本部会議室で行われましたので、審議、報告事項について、概要の一部を報告致します。今回の特徴は3月の臨時総会を前にした新年度事業計画、予算(案)が加わり、審議事項が盛り沢山であった事と、会議後、私共地方選出理事の発案による理事懇談会を初めて開催した事でした。懇談会には全役員が出席し、日頃の会議だけでは判別できないお互いの長所も理解出来て、有意義なパーティーでした。

審議事項

1. 平成14年度事業計画・収支予算(案)について
 - ① 監査業務の受託予定が関東に限られている事から、私をはじめ各理事から各支部で推進し易くする様、具体的に強く要望した。
 - ② 技術士の知名度向上について、具体的活動を会としても進めたいと要望したが、積極的行動を起こすまでの認識が薄い事を痛感した。
 - ③ 14年度収支予算書(案)によれば、収入合計=1,483,559千円(一般会計;369,059、CPD会計;21,500、特別会計;1,093,000)で、支出合計も各々同額となっている。
2. 「技術士CPDタスクホース」特別委員会の設置について
 - ① 設置についての賛否意見質問もあったが原案通り了承された。

② タスクホース委員会メンバーについて在京会員オンリーである事に関し、「機動性を持たせる為」との説明あったが、今後、委員追加等で調整する事を要望し承認された。

3. 総会委任状取扱いについて

- ① 先の総会の轍を踏まないため、事務局から案が出されたが、不備が多い為、修正等を会長に一任した。
(このほか省略)

報告事項

1. 第31回日韓技術士会議(於:済州市)
 - ① 日本側参加者;91名(同伴15、事務局4を含む)、韓国側;151名、計242名。
 - ② 第32回は仙台市に決定。
2. 平成13年度技術士第1次試験結果
 - ① 合格者;2,200名(12年度2,462名)、対受験者合格率;13.7%(12年度20.0%)
3. 平成13年度技術士第2次試験筆記試験結果(総合技術監理部門)
 - ① 受験者数;7,944名、合格者;2,581名、合格率;32.49%
4. 科学技術・学術審議会 技術士分科会一般部会報告(「技術部門の見直し」について)
 - ① 10月~12月の間、5回の会議が持たれた(一部は技術士会HPに掲載)が今後はWGで作業が進むという。重要事項である事から会議の都度、各理事に資料配布を要望した。
(このほか省略)

平成13年度第3回支部長会議

九州支部 支部長 田中 穂治(経営工学・福岡)

2月6日(水)午後、平成13年度第3回支部長会議が日本技術士会本部で行なわれた。

会長挨拶後、直ちに議事に移り、本部よりの現況報告、ならびに各支部より提案された議案について審議がなされた。

I. 本部報告事項

(1) 平成13年度技術士試験結果

① 第一次試験

- (A) 受験申込者 22,808 (18,659) 人
(B) 受験者 16,074 (12,326) ''
(C) 合格者 2,200 (2,462) ''

合格率 (C)/(A) 9.6% (13.2%)

合格率 (C)/(B) 13.7% (20.0%)

注：() の数値は平成12年度の結果

② 総合監理部門筆記試験

	九州地区	全国
受験者	764	7,944名
合格者	213名	2,581名
合格率	27.88%	32.49%

(2) 技術士会平成14年度事業計画

① 全体事業

- * CPDを通じ技術士の自己研鑽と倫理観向上
- * EMF(国際エンジニアリング制度)の検討推進
- * 科学技術の進歩に伴う技術士部門の見直し
- * 社会に対する技術士の活躍の場の拡大の推進
- * 行政改革に伴う、関係当局による監査実施予定
- * 指定登録機関としての事務の電子化の推進

② 一般事業

- * 技術士業務に関する対外(国内外)協力の推進
 - ・国内業務：諸官庁、弁護士会、損保関係等
 - ・海外関係：ODA関連事業の受託業務
- * 広報及び普及啓発
 - ・CPD関連情報の月刊「技術士」への迅速な提供
 - ・会員向け専用HPと付加価値の高い情報の発信
 - ・CPD充実のため、関連学協会と情報のリンク
- * 技術士CPD活動の実施
 - ・CPD体制の強化に資する「場」と情報の提供
 - ・支部の特性を活かした場の発掘及び活用等
 - ・CPD教材の開発と整備
 - ・CPD記録の登録
- * タスクフォースによるCPD活動の支援

・CPD活動支援策の立案とプログラムの展開

・CPD特別会計の設置と収支均衡予算

・支部開催のCPD内容の適否の認定

・CPDガイドブックの発行

* 修習技術者(技術士補)の支援及び研修と研鑽

* 技術者国際資格の相互承認

・APCエンジニアの審査登録推進

・技術者の流動化に関するEMF情報の収集

* 海外交流

・日韓技術士会：平成14年度は仙台にて実施予定

* IT化の促進

・CPD登録システムの電算化による円滑化

・技術士個人業務経歴のデータベース化

* 工学部、理学部の学部長を対象とする技術士制度シンポジウムの開催(東北、関東、近畿地区)

II. 支部提案事項

(1) CPD関連

東北、中部、中四国支部よりCPDの議案が提出されていたが、審議すべき内容の大部分は本部説明の中に含まれ、その都度審議された。

(2) 地方自治体工事監査の件

九州支部の提案により審議が行われた。本部としては、外部監査の中身、契約の内容、責任の所在等により簡単に決めるわけには行かず研究の必要性が述べられた。しかし、技術士を名乗る他団体では既に自治体工事監査の実績を有しており、この問題は各支部においても同様の悩みを抱えているので更なる調査検討が必要で、
○ 総統審議となり次回に持ち越しとなった。

行事会合報告

21世紀九州陸海空の街道創りを考える研修会

九州支部 継続教育委員長 内山 順治(林業・佐賀)

総合技術監理手法は、わが国BSE対策と、羊頭狗肉を継続し消費者の健康より金儲けを重視する雪印企業の製造ライン、破綻金融業の幹部、更にこの10年で130兆の公費を投入しても増え続ける不良債権と失業率、低下する通貨、株、不動産価格等目減りする国民資産の保全に、どのように使われ機能した

のか？

監理技術もITも所詮はTOOLで、大切なのは取り組む者の志と心根が問題ではないか、とテキストを見ながら想う。テロ対策と多数の難民を抱えるアフガン復興対策、旧植民地から独立した国々の人種対立と紛争、それを齎した旧宗主国の責任感覚も理解

出来ない。

私達が乗せられているグローバリゼーションの波は、強者を育てる反面、弱者貧者を益々窮地に追い込み、テロを正当化する主張が生まれる素地を世界中に創り出してはいないか。

バイオ技術が公共福祉に活用されることを望むが、現在の発展途上地域の人々が善意から分け与えた、現地で何世紀にもわたり存続改良されて来た食物種を、殆ど無償で受け取り、その形質の極一部を遺伝子操作で改変して特許権を設定、現在飢えで苦しむ原産地の人々から高価な特許使用料を取ることへの疑問。環境、食物種と調理法は人類共通の資産文化ではないのか？

戦乱紛争の跡に膨大量が放置されて今も現地の人々を殺傷し、今世紀中の撤去は不可能と云われる対人地雷、核兵器等の放射能汚染による住民被害に対し、兵器を使用し、また他の国や組織に販売、提供し利を得た国々と企業が責任を感じて、地域安全浄化に努めているのか。力ある環境汚染者が、善意の弱者とNPOに後始末を委ねて、正義と称する武力を行使するのが世界平和と人類安寧福祉に通ずる方途なのか？

九州支部の総合技術監理研修で学んだ科学技術倫理と、環境保全、公益確保義務、製造物責任法、PPP原則、PTR法の精神と現実世界との大きな隔たりに感じる無力感。だがソルトレークシティの冬季オリンピックに史上最多77国が参加、WTOに加盟したGDP成長率8%の中国が招致開催する北京オリンピック。当然中国は都市交通の基盤整備で更に躍進が見込まれ、日本の製造業、企業農業の進出も著しく、椎茸、葱等のブームラン貿易摩擦交渉も継続しているが、アジアに近接した九州は、対立より機能分担と協調の方途を模索すべきだと思うが、九州の知性、頭脳、技術は力を結集し集団で機能しつつあるか。

環境劣化とインナーシティ問題を抱える九州地方都市の再生対策を見ると、活性化を図る決め手となる、情報と資源、人物の交流基盤である道路港湾空港の機能を九州各県が協調し機能分担を考える公開論議がなされているとは思えない。体質改革無き景気対策の失敗の槍玉に挙げられた公共事業への非難を恐れる余り、常時当然に検討すべき社会資本の整備構想の構築と体系化への取り組みが等閑、日和見されているのではないか。

技術士会九州支部は以上の見地から、総合技術監理研修“21世紀九州陸・海・空の街道創りの学習会”を企画、平成14年1月16日に開催した。

講師は、九州の道創りに幅広い市民の意見を取り入れることに早くから尽力して来られた九州地方整備局道路部長の森将彦さん（技術士・建設）で、行政、技術士会、建設コンサルタント関係者等100余名の参加があった。特に今回の研修の為に急遽、最新の情報を網羅して森部長、赤星課長補佐さん（技術士・建設）等が休み返上で編纂され、配布戴いたレジュメは64ページに及び、充実した道路政策テキストとして活用できる素晴らしい内容であった。改めて森部長はじめ関係者に深く感謝申し上げる次第である。

講義の内容はまず、アジアに近接した九州にあって、陸海空の交通運輸と情報人材の交流を支える道路行政の使命を、経済の活力と豊かで質の高い暮らしを支えることと認識されていること。つぎに新たな道路行政の進め方を、「低迷する経済の立て直し、生き生きした暮らしの実現に向けた構造改革」と位置付け、道路政策を5つのキーワード「環境・少子高齢化・都市再生・個性ある地域・IT革命」に集約。基本方針として「徹底した情報公開」「既存施策・事業の総点検」「住民・エンドユーザー志向の徹底」の3つを掲げ具体的に顧客満足度調査、道の相談室、モニター制度活用、構想段階での住民参加プロセス導入、社会実験、アカウンタビリティーの向上（ホームページに特別サイト等）を示された。更に3つの連携施策として「都市圏交通円滑化、交通結節点、広域物流ネットワーク等の交通連携」「市町村交流合併等の地域連帯」「緑の回廊など環境連携」等を述べられた。

参加者からの熱心な質問に懇切丁寧に答えられ、予定時間をオーバーする活況であった。

九州陸海空の街道の現況を見ると、既にパンク状態の福岡空港に対して玄海海岸埋め立て構想もあるが、有明佐賀空港、長崎、熊本、など九州各地の空港との連携と機能分担と総合機能向上策を考える協力検討はなされていない。空港港湾を結び、環境保全とアクセス路網配備による九州全域の都市活性化構想の具体化など、九州に生活する我々技術士が市民と共に道路政策つくりに参加することの大切さを強く認識させられた有意義な研修であった。

部会報告

第一部会研修見学会

(株) 正興電機製作所

第一部会長 野見山益生（機械・福岡）

恒例の第一部会研修見学会を、今年度は平成13年11月16日に福岡市の北部に隣接した古賀市の(株)正興電機製作所で実施した。参加者は13名。

古賀市は平成9年に置市施行で福岡県の中で一番新しく人口約5万強の小さな市であるが、食品をはじめ工業関係の企業が約40社あり、製品出荷は県でも北九州・福岡について第3位の生産都市である。その中にあって正興電機は当年80周年の輝かしい歴史を持つ電気機器メーカーで、受変電システム、制御システム、電子機器、情報システム及び工事サービス等、幅広い業種にわたり海外も含め活躍中の企業である。

1. 会社概要について

南里事業所長より、製品別、顧客別及び海外を含めた関連会社の内容について、特にプリント基板関連、クリーンエネルギー、地球環境、高分子液晶表示、独立制のキャッシュフロー経営、及び品質管理システム ISO 取得に亘り、詳細な説明をお聞きした。

2. 現在開発中の製品について

a) プリント基板研磨装置

多層化ステンレス盤の装置の概要

b) プリント配線盤の検査装置

穴検査、パターン検査等装置の特長

c) 生物センサー技術

水質検査技術を主体にしたメカトロ技術

以上について各担当者よりそれぞれ説明があり、環境対策をテーマにした開発に注目した。

3. 工場内見学

担当の永利グループマネージャーの案内で各工場を順次見学した。

①電力・エネルギー・システム関連で、写真に示している配電自動化システムに見られる自動監視制御、特に変電所、発電所関係の制御盤関係を製作中のところ。

②公共環境システムで、浄水場監視制御盤、道路照明用コントロールパネル、下水処理監視装置等の

配電盤関係の工事で配線調整しているところ。

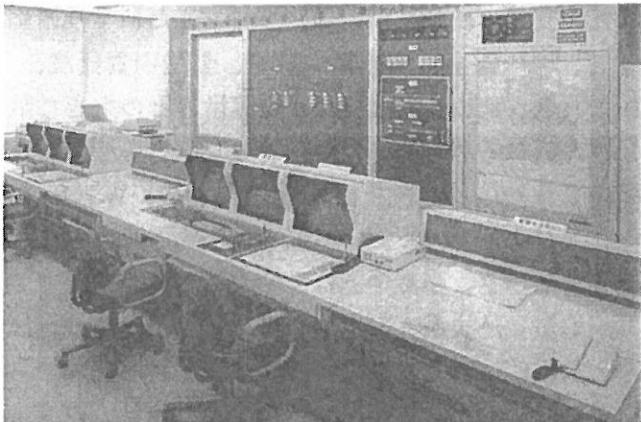
③産業システム工事では、プリント基板研磨装置のデモ機の稼動状況、並びに生物センサー装置でメダカを水槽に入れ水質による生物の挙動監視を立体的に監視する実験装置。

④制御機器工場では、遮断機、開閉器、繋電器及び小型のコンポーネント関係の機器。

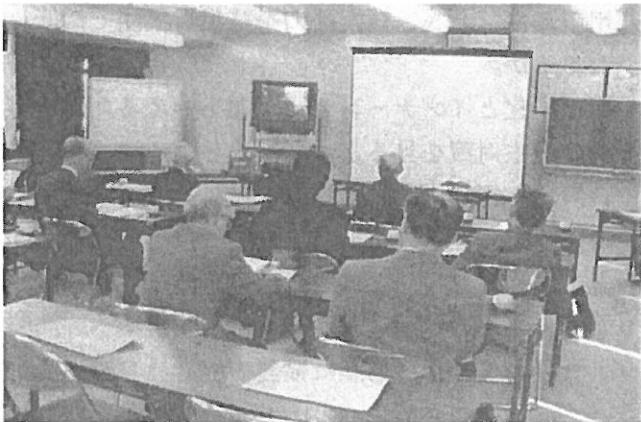
⑤情報通信関係で、業務ソフト開発、ソフトパッケージ、システム運用保守等の情報と制御のグループ化を目指とした関連部署。

4. 見学を終了した後で最後に会議室に戻り、青木理事の総括説明で、特に海外関係の中国大連市及びマレーシア、シンガポールの状況について話を聞き、その後質疑応答並びに感想等、各自活発な意見が数多く出され、有意義な見学会を無事終了することができた。ここに改めて関係各位に深く感謝申し上げます。

尚見学参加の有志の方達と近くの山賊鍋屋でささやかな懇親会をおこない、十分親睦を深める事ができ楽しい見学会であった。



配電自動化システム



見学会説明会場

焼きものと土

田原 正清（建設・福岡）

眞夏の甲子園球場、戦いに敗れた高校球児が目に涙を一杯ためながらグランドの土を袋へ詰め込み、監督に急立てられて球場を去ってゆく、あの清々しい光景は夏の風物詩のひとこまである。

ところで、ある時期、NHKが放映していた番組で、シリーズ名は忘れたが、地球上の鉱物で焼きものにならないものはないことを実証するため、甲子園の土を使って焼きものを造ってみせたことがあった。勿論、成形のために繋ぎ材がないことには無理な話なのだが、それでも細粒分の混ぜ方次第で立派に焼きものになっていった。

甲子園ではグラウンドの材料を全国から集めていくようで、記憶違いがあればご勘弁を願うとして、例えばモルタル試験で欠かせない豊浦砂であったり、白球の動きを際立たせるために混入する黒っぽい色調の桜島の火山灰であったり、グランドキーパーのブレンド作業も並大抵ではないようであった。

概して、砂または砂質の材料は粒径がほぼ揃っているので、箱に詰ったパチンコの玉を連想していくだと解りがいいのだが、このパチンコ玉の粒径が大きいか、小さいかだけの違いで粒度組成曲線を描くと、それぞれがほぼ垂直に近い曲線になってくる。(図-1 参照)

有明湾奥にある鹿島市の海岸で、近年ガタリン

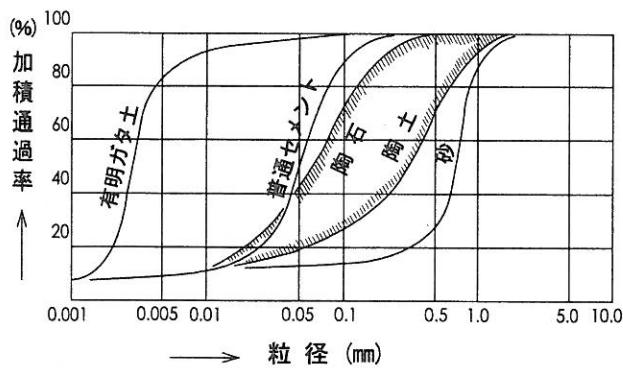


図-1 各種材料別粒度組成概念図

ピックが地域のイベントとして定着してきている。

この海岸の潟土の平均粒径は数ミクロンである。普通セメントの粒径が数10ミクロンと云ったところだから、1オーダー低い訳で、如何に細粒であるかが分っていただけると思う。

ところが、この潟土は筑紫溶岩系の火山灰なので、焼きものの素材として利用できると考え、トライしてみたことがある。ガラス質がリッチなのが1,200°C程になると変形が始まるので主剤には無理としても、面白い材料だと思っている。当時、有明町で備前風の焼き締めに取組んでいる人が居られたようである。陶土は2次粘土で、今様の素地屋さんは田圃の表土を剥いだその下の成層した粘土を採集して商品として出荷している。

これに対して磁器の怡土は、天草陶石（三紀層の岩石）を人工的に粉碎して造るため粘度組成は前述のパチンコの玉型だと思って差支えないようである。

道路の路盤の支持力を計る方法にCBRテスト(California Bearing Ratio)が使用されている。

軟弱地盤で稼動しているブルドーザーが2・3度往き来しているうちにズブリと沈むことを見掛けることがあるが、この時のCBR値が零と思ってもらってよい。

磁器の素地は丁度この軟弱地盤と相当していると思っていただくと解り易いようである。

天草陶石をロクロに載せて水挽きで引き揚げると、ロクロが回っているうちに次第に沈んでゆく。

その速さと沈み具合が陶土（土もの）に較べると大きく、磁器の造形は陶土に比べると難かしい。

陶土の方が踏んぱりが良く、大物が挽けるのは粒度組成がウエルグレイティッド（通称バナナカーブ）と云われるよう粒度配分が良く、内部摩擦角が効いてくるからであろう。(図-1 参照)

土ものの典型例である唐津ものの素地には、焼きものの肌合いのためからであろうか、2次粘土に砂を混入する素地屋が唐津方面には多い。

最後に、焼きものの常用語に、造り、窯焚き、色と良く云われるが、その前に土があると云ったのは人間国宝となった無庵さん（第12代中里太郎右衛門）であった。造りとは、造形、かたちであり、窯焚きは字義通り、焼成が酸化か還元炎であるかが色合いを決定づける基本となるのだが、そのまえに土があると云ったのはけだし名言である。

地域活動

北九州

ますます活発な月例研修会

代表幹事 是永 逸夫（機械）

前報でもご報告しましたように、北九州地区技術士会は月例技術研修会を「技術士会活動の根源」と位置付けて活動を行っています。

5月～9月は出席者が40名を越える盛況になりました。月例研修会に引き続いて総合技術監理部門受験学習会を実施したためです。

実際の試験では予想が大きく外れたために苦労しましたが、全員で力を合わせて一つの目標に向かった活動には大きな成果があったと感じています。

全員で各方面から資料・情報を集めて利用し合った結果は今後の総合技術監理活動に大きく役立つと確信しています。

10月から通常の例会に戻りましたが、出席者は30名を越える状態が続いている。技術講演件数は月

2件で、内1件は卓話として、経験豊かな先生方から若年層への技術伝承を狙っています。また、CPD活動にも協力出来ています。

現在既に年末までの発表申込が集まっています。

新しい試みとして、10月末には「北九州博覧祭」見学会を催しました。あいにくの天気でしたが家族連れやご夫婦、福岡からの参加も含めて約30名の参加がありました。北九州市の主催者側のご配慮をいただき有意義な見学会でした。

12月には恒例の総会・忘年懇親会を八幡大谷会館で開催しました。田中支部長を始め専門委員長の先生方のご出席もあり、50名を越す盛会となりました。月例会精勤者12名への賞品授与もあり、宴会を盛り上げました。

次のステップとしてゴルフ同好会の話もあり、現在計画中です。

新しい年を迎え、間もなく第二次試験受験準備等の動きになりますが、益々活発な北九州地区技術士会にするべく全員ではりきっています。他地区の先生方も気軽に参加される事をお待ちしています。

熊本

最近の技術士活動

代表幹事 林 博昭（農業）

熊本県における最近の技術士活動は、熊本県技術士会と、日本技術士会プロジェクトチーム熊本技術センターの2つの組織で活動しています。

熊本県技術士会は、現在、会員168名で、日本技術士会に入っていない方も会員です。このため、日本技術士会九州支部の運営通りにはいかず、独自の方針を立てて運営しています。簡単に紹介すれば、技術士試験の支援活動など九州支部の指示事項を軸として、若い山本センター理事が、茶話会、今年からCPDが加わりましたので技術研究会と名を改めましたが、このような会合を開いて県内技術士の啓蒙活動を行っています。また、熊本県技術士会は、これまで任意の団体であり肩身が狭かったのですが、今回特定非営利活動法人、つまりNPO法人として承認されるよう申請しております。

一方、熊本技術センターは、現在16名で設立後14年を経ております。プロジェクトチームでありますからテーマが必要ですが、熊本技術センターは環境に関する地域作りと取り組んでおり、地球温暖化に伴う有明海・八代海の海域環境・生態系の保全と、干拓堤防・干拓低地の国土保全に関し研究を続けております。すでに、大牟田・荒尾市、八代市、佐賀市でシンポジュームを開き、当初計画していた目標はどうやら達成しました。今後は、熊本技術センターだけの問題ではなく、海域の沿岸地域に関わる問題として活動の場を広げたいと思っております。そこで、当センターが事務局となり、九州大学、佐賀大学、熊本大学の3大学と連携を組み、「みらい有明・不知火」というネーミングでNPO法人を立ち上げて活動する予定で、現在申請中であります。会員募集を4月から開始しますので、技術士の方で興味のある方は是非参加してください。

以上が最近の活動状況ですが、技術士活動のテーマは、私どもの身の回りに山ほどあります。最近、若い人たちが技術士として増えており、どんどん活動の場に出て来てほしいと思っております。

長崎

地方における技術士 CPD

代表幹事 山口 和登（応用理学）

昨年の技術士だより春季号〈第47号〉に同じタイトルで地域活動報告を行ったが、昨年と今年とでは多少趣が異なっている。その理由としては、昨年時点では正式に「技術士CPD」がスタートしておらず、現時点では既にスタートしており、更に今年の4月からは「CPD実績登録」がスタートすることである。

しかし、地方における技術士の大半（長崎地区のみかもしれません）の意識は、昨年時点と大きな差はない様に感じられる。長崎地区においては、地区内技術士への連絡体制の確立を昨年夏に完成させ、研修会等の情報連絡は昨年より充実させたが、今年の新年研修会への出席者は昨年同時期の研修会に比べてやや少ない（総勢24名）人数であった。

今年の新年研修会は2月1日（金）に諫早市内ホテルで実施した。前半は長崎県商工労働部新事業振興課長の安永憲一氏に「長崎県の産業振興（工業を中心

として）」、後半は佐賀地区より参加していただいたNPO法人技術フォーラムの原田彰氏（技術士・建設）に「長崎・佐賀を舞台とした佐賀藩の挑戦」のテーマで、各1時間の計2時間の講師を務めていた。今回の研修におけるCPDの課題とその区分は、両テーマ共に「一般共通課題」に区分され、「課題項目」としては前半が産業経済動向、後半がその他（科学技術史）に分類される。

長崎地区における研修会を県技術士会が主催する場合、多方面の専門技術士（10部門以上に渡る）が多い為、区分としては一般共通課題とならざるをえず、技術課題に関しては各技術士が選択履修する事となると思われる。

しかし、前述した様にCPDの必要性の認識が薄い点に関しては大きな問題であり、CPDの必要性（目的）のPR不足に大きな原因があると思われる。また、CPDの形態や記録方法等について更に簡単に理解出来、CPDを履修しやすいシステムの確立が望まれる。特にCPDに関し、地方に存する技術士が取り残されない様に努力する事が支部を含め地方の技術士会の大きな使命の一つであると考えられる。

宮崎

CPD、受験指導と宮大

代表幹事 新城 精一（建設）

宮崎地区の当面の課題は、CPDと受験指導である。「地方において年50時間のCPDを達成することは困難であり、何とかそれに対応した研修会を増やしていきたい」ということと、「技術士試験の今年の合格者が県土木9人、宮大2人が示すように、公務員は大幅に増えているのに民間が少ないので、民間向けの受験指導をしていきたい」ということであった。

一方、昨年暮に宮大の先生を講師に研修会を実施したところ、「宮大でも技術者の資格取得と継続教育を支援していきたいし、その為の予算もついているので、技術士会の全面的な協力をお願いしたい」旨の申し出があった。

今年になって、早速下記のような具体的な研修会の提案があり、技術士会に対し、講師派遣と参加依頼の申し出があった。おかげで、当面の課題、CPD

と受験指導についてはなんとか解消されそうである。

従って、例年実施している「受験申込書配布説明会」も今年からは宮大との共催となり、場所も宮大に移し、内容も配布説明、体験談に限らず、部門ごとの個別の受験指導まで実施していくことになった。

- ・技術者倫理と技術者資格に関する講演会
(太田 義信、柴田 賢一) H14. 1. 31 15~17時
- ・技術士補資格取得のためのセミナー
(浅野 誠) H14. 2. 7 15~17時
- ・技術者資格制度に関する研修会
H14. 2. 15 13~16時
技術士制度とPE資格（坂田 廣愛）、
技術者の流通と技術者資格（足立 俊一）、
技術士受験の動向（新城 精一）
- ・社会人ブラッシュアップ教育（技術者資格取得を指向した地方における技術者継続教育）
技術士第二次試験受験申込書配布説明会及び受験指導（講師未定） H14. 3. 16 9~15時
- ・技術者倫理と経営工学（朝日 輝）
H14~15H

海外技術指導と語学(言葉)

高橋 興一(金属・北九州)

現在のIT関連技術の進歩は世界の国々の距離をなくし、個人でも国内、国外を問わず容易に相手との関係を結ぶことができる。当然技術士の皆さんの中には機会があれば海外への技術指導を視野に入れている方もあると思う。そこで技術指導の手段の一つ?の“言葉”を取り上げてみた。

私も45歳を過ぎて一時期、急に海外との技術営業として主に製鉄設備関係で韓国・台湾・東南アジア関連のBusinessに関わることになった。営業として当然仕様打ち合わせ等で海外に出かけることもあったが、しかし現地には通訳(英語)の方もおられるので言葉の心配はないと励まされて安心して臨んだ。最初の紹介や挨拶などはさすがに流暢な通訳のおかげでSmoothに進んだが、さて本題に入って技術的なことや詳細仕様の討議に入ると話の進みが遅くなった。当時は語学に自信のない私だったが止むを得ず時には単語の羅列のような説明をしたところ相手も技術者だからそれが通じることがあった。これはさすがに嬉しかった。と同時に技術には専門用語も多く、説明も特殊知識が必要なので自分で簡単な技術説明をする位のレベルを目標に英会話の勉強が必要と痛感した。

また60歳を過ぎて、韓国のS社から個人的に技術指導の要請があり引き受けることにした。さすがにS社は韓国でも1、2を争う会社で外国語教育にも熱心で日・英語の教育が行われていた。それで技術指導も日本語(標準語)で、進めることが出来、英語での指導も可能であった。ところがその様なS社でも現場に出るとそうはいかなかった。

当時鋳鋼工場は月産1,200Ton(日産50Ton)の小物量産で、流れ作業である。現場での注意や指導は直ちに行なわないと問題が未解決でも作業はどんどん進んでゆく。当初は日本語の分かる方が居られない時はどうすることも出来なかつた。ある時、雨が降りそうなのでトラックに積んだ荒加工品にカバーを掛けるように指示しようとした。“雨”と“錆”

という言葉を知っていれば簡単なことと思うがカバー!!と何度も話しても意志が通ぜずに困った。その外、休日に外出の場合や、またShoppingするにも言葉が出来ないと不自由なので独力で韓国語会話の勉強に取り組んだ。

これは次第に効果が出て、そのうちに一人で何処に行っても余り不自由がなく、現場指導でもなんとか意志を伝え実行して貰うことが出来て、異国での生活違和感が急速に無くなつて行った。また私が韓国語で指示すると現場の人々も笑いながら再確認して従ってくれた。技術問題では私が先生であるが言葉では彼らが先生であり、これは親近感にもつながつた。

当時のS社には他の職場に英・米・豪・独逸等のSVや顧問がいて食堂を共にした。英・豪の技術者は単身で長期でありすぐ仲良くなつた。休みとなる土曜午後は食料の買出しに、日曜は時には3人で車での日帰り観光に出た。なんと、その時の英一韓語の通訳は日本人の私なのである。他に技術的な知識やお国の話も出来たしParty等も開けて楽しかった。

さて短期間の指導等では通訳を通じることが多いが、通訳の人が充分に技術を理解して確実に伝えてくれれば何等問題はない。それでも時間的には直接に自分で伝える場合に比して倍の時間がかかる。しかしもし通訳が未熟であれば折角の技術も生きて伝わらないことも起こつてくる。私の場合に或る人から“高橋さん、貴方も年をとりましたねえ、話がくどくなられた”と笑われた。その筈で、実は通訳の人が本当に私の言葉を理解して正しく伝えているかどうかを確認のために時々別の表現でもう一度話し、同様な反応があれば安心するのだと話して理解して貰った経緯がある。

私の経験でも日本では優秀な立場で技術にも通じた方と想うのに韓国ではそれほど高い評価を受けていない方がおられた。これは本人の性格や指導方法以外にCommunicationの問題もあつたと思っている。

このように海外での技術指導を考慮中の方々は、私自身の経験から英語に加えて現地語を少し勉強されることが、自己の技術を円滑に伝え、また結果として高い評価にもつながり、現地生活での苦労をなくす早道と考えている。理屈をいえば意思を伝えるのは言葉であり、中学から勉強しているのは“語学”であつて“言葉”的感覚とは少し違う感じがする。これが実感である。

NPO法人技術交流フォーラム の近況報告

佐賀地区広報委員
島内 明（建設・土質）

私たちは、任意団体であった佐賀県技術士会を母体として平成13年8月にNPO法人技術交流フォーラムを設立しました。設立目的は、「技術士集団を核とし、その高度な技術および応用能力をもって、ひとつくり、地域づくり、くにづくり、災害救援、環境問題などの活動に科学技術の分野で貢献し、同時に、若年技術者に各分野で技術や経験を継承し、もって科学技術の発展とともに、公益の増進と豊かな社会形成に寄与することです。

現在は、急がず慌てずをモットーとし、具体的にNPOとしてどうあるべきか、何を活動内容としていくか、外部からの要請事項は何か、会員の拡大はどうあるべきか、等について月2回集まりフリートークングしています。

1. 現在の活動内容

現在の活動内容は、①CE塾、②佐賀県測量設計協会講習会への講師派遣、③CPD教育、④災害救援活動の取組準備、⑤ホームページ立ち上げ等です。

①CE塾は、技術者の研鑽と技術士第2次試験受験対策指導を目的として平成9年に1期目を開催し、今回6期目を迎える、佐賀大学都市工学科4階会議室で、月2回隔週土曜日に開催しています。寺小屋方式による受講生一人一人に対する個別指導と、経験記述（体験）論文の添削、建設一般（経済社会）論文の出題傾向分析による問題予測と添削、及び専門問題への取組方と添削を指導主体としています。なお今年のCE塾受講生は6名で、先日2月9日に受講式を行いました。受講生の全員は建設部門です。みんなの目が燃えて輝いています。NPO講師一同、全員合格を願って助言指導します。

②佐賀県測量設計協会講習会は、協会から依頼を受け、月1回開講している学習会です。講座内容は、

道路設計の考え方と進め方、計画設計と地形地質、室内土質試験見学、土質工学演習、急傾斜地法規解説、がけ崩れ概論、地すべり粘土について、環境に配慮した法面緑化のあり方、等の建設調査設計実務に直結したものです。受講生は、佐賀県内の建設コンサルタント会社に勤める20～30代の若手技術者です。RCCM、技術士補、技術士受験への啓発及び設計技術力の向上を目指しております。

③CPD教育は、外部から講師を招いたり、また内部の人に講師となってもらいながら月に1～2回地区活動として実施しております。公開してますので外部の聴講者もみえられます。

④災害救援活動の④は、当NPOの議題です。災害救助団体の一員として佐賀県に登録出来れば、水害や河川・道路・林地・農地復旧計画にも高度な技術アドバイスが可能となります。

⑤ホームページを立ち上げようとしております。4月には皆様方に公開できます。ホームページ内容は、設立趣旨と定款、活動内容、会員への連絡等を予定しています。

以上が現在の活動内容です。

2. 今後の活動

今後の活動としては、現在、佐賀城の本丸の復元が進められていますが、この建設を契機に佐賀城内の歴史的景観の整備への支援や筑後川の支川・早津江川にあった佐賀藩の三重津海軍所跡の公園整備にも力を入れたいと思います。

また、“IT”に振り回されることなく、動植物などの全ての生き物に優しい科学技術の活用を目指します。その一環として、将来を担う少年少女たちと共に自然に触れ、遊びながら科学技術の大切さと面白さの啓発を積極的に進めることにしています。

さらに、高い倫理観と国際的な視野を持って、国内外の人たちと共に“自然と人に優しい科学技術の活用”を図ります。

これからは各分野の人たちとの交流協力を受けながら、活動していく所存です。皆様方のご指導ご鞭撻よろしく御願いいたします。なお、私たちの活動が、九州各県技術士会のNPO化及び連携等の参考事例になれば幸いです。

企業内技術士として

衛藤 郁（建設・水道・大分）

1. 技術士活動

技術士は活動の形態から、①独立技術士、②企業内技術士、③その他の技術士（公務員等）に大別される。その内、企業内技術士の割合は最も多く、私自身もそのひとりです。

現在、建設コンサルタント業務を主に、測量、補償コンサルタント業務等を行う企業に勤務しています。当社には、建設、農業、環境、水道の各部門に合計5名の技術士が在籍し、専門分野の技術業務・管理、部下の指導、組織の運営等に携っています。

去る3月2日、技術士として満一歳を迎え、これを機に一年間を振り返り、今後技術士として何を目指し、そのためにはどんな取り組みが必要か考えてみました。この場を借りてその内容を紹介させていただきます。

2. 企業内技術士の条件

私は企業内技術士として、専門技術の探求、組織の技術力向上、マネジメント技術の修得、技術者倫理の確立を目標に掲げた。また、常に第一線で活躍し、「仕事のできる」技術者であることの重要性を感じている。

(1) スペシャリストとして

近年、科学技術の進展はIT技術に代表されるように目覚ましいものがある。また、価値観の多様化等により、専門分野においても様々な視点からの評価がなされ複雑化している。このような時代の流れの中にあっては、短期間に状況が大きく変化することも希ではない。

これに対し、技術者としての視野の広さや洞察力、動向を客観的に判断できる技術力。さらには即座に対応できる行動力も要求される。その対策として、人的ネットワークを生かした積極的な技術交流、技術の裏付けとなる研鑽が特に重要であると考える。

(2) ゼネラリストとして

企業内技術士は、スペシャリストとしての役割以

外に、業務管理、人的管理、営業、経営等の技術が求められている。

建設関連業は未だかつて無い厳しい状況にあり、経営破綻などのニュースも珍しくない。しかし、これに尻込みすることなく、ある意味チャンスとして捉えることが必要である。このような状況を招いた背景や原因を分析・評価し、社内・外における問題点を特定すると共に、それらについて総合的な視点から検討を加え、最適な解決方法を選定して実行に移さなければならない。具体的には、今回新設された総合技術監理部門の要素技術でもある。

① 品質・コスト・工程などの経済性管理

② 経営資源としての人的管理

③ 業務の効率化を図るための情報管理

等を俯瞰的かつバランスよく管理することが求められる。上記の管理技術は、豊富な経験と多くの実績による積み重ねが重要であり、日頃から認識を深めるための継続的な努力が求められている。

(3) 技術者として

企業内技術士として取り組むべき課題に「倫理」がある。現代社会では分業化が進み、我々の生活に必要な様々な要素は、専門分野の技術者に委ねられている。例えば、水道の蛇口をひねるといつでも水が使え、直接飲むことができる。この信頼性の根底にあるものが技術者の倫理で、それを保証する資格が技術士などの資格制度と考えられる。

昨今、技術者倫理の必要性が高まる傾向にあるが、専門家として確信の持てる高度な技術力を維持することこそが、倫理問題を解決する糸口になるのではないだろうか。

3. 最後に

私は、現在41歳です。研修会等で先輩技術士の方と接する度に、技術者としての知識や経験の豊富さと、幅広い人脈に感心させられる。また同時に、同じ技術士であることに大きな誇りを感じています。

技術士になる前は、資格取得を当面の目標にしてきました。取得後この一年間は、業務と並行して先輩の方々が実際どのような活動を行い、将来像をどう描いているかを注視してきました。

今後は目標の実現に向けた諸活動と共に、若手技術者の育成にも力を尽くしたいと考えています。

おめでとうございます 平成13年度技術士第一次、第二次試験合格者(福岡会場)

★第一次試験 (平成13年12月21日発表)

<u>機械部門</u>	永田 涼二	飯星 智博	八木 章久	服部 寛	藤井 さとみ
藤村 宣仁	坂本 浩生	竹村 太佐	赤堀 裕	盛永 保	熊澤 一正
	池田 政治	上野 修司		高橋 浩道	川畠 史子
<u>航空・宇宙部門</u>	川村 善郎	石原口 一人		土井 呈	鬼頭 剛
米倉 浩二	阿部 順二	野村 靖正	西蒂野 茂樹	菊池 英博	椎原 美紀
	末松 史朗	安達 昌平	中島 英憲	井戸 勇二	村上 武志
<u>電気・電子部門</u>	渋川 剛史	田原 俊哉	船木 肇	永野 茂	花田 康行
岩本 宗久	岡田 洋輔	井上 昌士	中原 公治	伊藤 純仁	矢野 寛幸
大川 秀喜	定野 秀記	熊木 朋子	白石 悅二	徳永 隆昌	内山 寛明
野仲 宏	小石 修弘	橋本 裕治	谷口 匠	上田 純久	藤井 愛
	渡部 利文	益田 宗則	池田 二雄	江頭 信一	森 秀樹
<u>化学部門</u>	古澤 隆	水島 俊基	石原 正義	吉田 毅	寺師 百枝
伏谷 信広	田浦 正也	日高 治	澤田 昌秀	堀 俊男	高口 英明
	久保 謙介	松林 建	原口 真勲	土本 明	元浦 哲郎
<u>金属部門</u>	永原 一明	梅野 高志郎	宮崎 宗和		藤川 将之
田丸 喜久	林 哲也	石黒 明伸	吉田 裕二		清崎 淳子
	遠山 景正	西川 卓次	高山 史哲		
<u>建設部門</u>	青崎 譲二	三村 幸広	冷牟田 寛志		
戸川 謙二	秋山 和彦	富永 哲男		<u>水産部門</u>	萩尾 隆
福士 大介	小原 史忠	富永 真生			櫻井 伸樹
今田 進平	濱畠 嘉国	松下 俊樹			喜多 洋一
市川 健	宮丸 正和	大場 真由美		<u>衛生工学部門</u>	
坂本 康彰	米田 宏敏	後藤 将明			
石井 一志	佐々木 賢二	石田 聰		<u>情報工学部門</u>	
木村 晋	山崎 秀樹	楠田 広和			
谷 和男	中村 二三男	田中 豊記		<u>環境部門</u>	
村上 公一	金澤 友徳	赤司 恵美			
大橋 朗	馬渡 俊裕	松尾 茂樹		<u>応用理学部門</u>	
加茂 豊博	佐藤 直	赤崎 博義			
上山 孝英	鴨川 玄	大橋 広治		<u>農業部門</u>	
小金丸 卓哉	大島 栄	安立 寛			
柴田 賢一	枡田 育男	田口 誠司			
中村 和彦	小林 泉一	住田 裕志		<u>松迫 晓子</u>	古谷 善明
中村 明	富重 裕紀	小田 憲一郎			中島 文雄
高田 靖士	福田 聖一	中村 晋太朗		<u>大石 徹</u>	平佐 俊一朗
黒木 哲也	山口 栄一郎	福原 昌子			山本 聰
酒匂 一成	井手 雅敏	吉川 智彦		<u>成田 仁</u>	國重 典宏
萩野 恵治	片山 直樹	鈴川 俊道			中野 兼宏
				<u>坂口 修一</u>	福塚 康三郎
					逆瀬川 和典
				<u>紫尾 和文</u>	

平成13年度技術士第一次試験結果

	全 国	福 岡
受験申込者数 (人)	22,808	2,333
受験者数 (人)	16,974	1,665
合格者数 (人)	2,200	174
対申込者合格率 (%)	9.6	7.5
対受験者合格率 (%)	12.9	10.5

おめでとうございます 平成13年度技術士第一次、第二次試験合格者(福岡会場)

★第二次試験〔総合技術監理部門を除く19部門〕(平成14年3月7日発表)

<u>機械部門</u>	(土質及び基礎)	巣山 藤明	門脇 繁	寿恵村 良成	田中 泰幸
(原動機)	渡邊 一	黒木 隆二	福永 卓巳	佐藤 祐二	久木田 祐次
田頭 健二	山崎 恭司	平木 伸尚	木口 誠二	松雪 清人	高山 祐二郎
武野 計二	盛田 信広	谷口 達也	長友 光朗	光武 久修	清水 透
(精密機械)	西頬 和之	北島 久	日暮 光一郎	中川 裕	足立 俊美
向島 仁	白井 康夫	原田 耕治	井上 康志	勢田 昌功	宮崎 茂幸
前川 仁	松永 道雄	江崎 守	山城 俊昭	青木 正延	木村 恒雄
(建設、鉱山、荷役及び運搬機械)	住田 裕志	和田 教志	押野 芳輝	大橋 広治	藤木 明
佐藤 亮	湯 怡新	片山 英一郎	泉田 憲和	(港湾及び空港)	阿部 文彦
(産業機械)	高橋 芳友	遠藤 高弘	河野 修治	堀之内 毅	後藤 勇
花田 俊弘	本田 信孝	畠仲 俊治	有田 治	佐藤 時人	松木 重夫
小川 三平	高野 道直	木下 大	伊藤 杉太郎	津嶋 了	國分 恒彰
	南里 勝	本多 祥二	荒井 一弘	寺田 利博	江口 勝
	佐藤 浩司	新山 庄一	菅 忍	田中 拓郎	勝木 昭貴
(発送配変電)	新納 格	杉山 嘉則	春口 勝幸	稻田 雅裕	大隈 浩
鹿島 倭一	菰方 弘樹	竹本 京治	瀬川 洋一郎	上野 典彦	今村 安美
	福本 英一郎	遠藤 俊宏	山本 良	永尾 十辰己	
	内藤 俊一	大丸 隆	涌田 博実	吉永 高敏	浜川 浩一
<u>化学部門</u>	植本 松弘	勝部 克美	畔津 義彦	高力 健次郎	見原 英二
(有機化学製品)	野村 正二	(都市及び	沓掛 孝	井上 篤	白賀 宏之
副田 真日止	瀬原 洋一	地方計画)	田上 健一	野田 和彦	山川 武春
(燃料及び潤滑油)	工藤 典比古	出口 近士	葱花 員旦	(電力土木)	東 久雄
和田 弘	大野 泰教	(河川、砂防	高向 正典	田中 克	
篠島 秀利	堺 美智雄	古賀 文博	及び海岸)	大坪 重幸	松本 義信
(高分子製品)	高木 章次	牧野 富一	福澤 一博	(道路)	桑原 和敏
早野 総和	(鋼構造及び	内田 智昭	吉田 恵	久保 和信	小松 和彦
	コンクリート)	深沢 朗	中西 敏夫	池田 好克	武田 浩卓
	山本 和雄	岩本 達樹	松本 直	畠 広一	後田 徹
(金属材料)	田中 孝幸	籠田 真一郎	柳 一郎	甲斐 辰美	廣田 信幸
馬場園 浩二	内山 正敏	山本 久子	市原 仁志	小松 陽一	乙丸 正彦
(表面技術)	中澤 隆雄	芳澤 利明	竹下 昌次	小林 秀典	鶴窪 廣洋
河本 理之	山本 尚己	池田 毅	今宮 照允	春田 博文	加賀 泰夫
(金属加工)	柏木 良一	竹下 憲博	水野 弘一	江崎 史啓	深谷 孝美
佐野 義一	石毛 立也	塙田 憲一	松本 和信	山根 良知	宇野 昭弘
堀内 満喜	橋本 芳章	渡辺 浩志	松尾 寧文	山口 光治	工藤 伸
上村 誠	高木 豊博	篠島 元	江口 友弘	岡崎 光央	鐘 廣喜
	吉田 陽一	廣森 徹	古賀 省三	渡辺 望	南 正昭
<u>建設部門</u>	津田 敏行	古賀 照久	川野 一彦	狩集 克己	高橋 浩一

増村 壽一 (鉄道)	松岡 俊治	<u>水道部門</u>
後藤 利幸	三浦 明典	(上水道および 工業用水道)
浜崎 明	山田 清	徳見 和男
千代 誠 (トンネル)	江藤 光博	(下水道)
黒木 久達	関口 勇	鬼木 哲
持田 拓児	芝 宗一	中井 敏公
下川 多米男	平井 健一	田中 博美
西島 正範	武市 信彦	佐藤 壽彦
石川 善大	島津 孝一	杉 秀峰
鵜木 和博	福吉 真一	手島 健治
藤崎 能正 (建設環境)	堤 茂徳	林 秀喜
大嶋 盛隆	宮崎 宗和	實取 一也
是枝 伸	豊崎 貞治	有留 一誠
伊藤 省二	大坪 弘幸	工藤 加久夫
大元 康温	岩井 健	和田 憲二
一瀬 康弘	片山 善仁 (廃棄物処理)	(農村環境)
禿 和英	林 秀行	池田 一吉
緒方 隆哉	鶴田 芳昭	水上 義喜
黒木 瑞昭	八重尾 恭彦	田島 忠彦
磯寄 正哉 (施工計画、施工 施設及び積算)	助川 直人	宮崎 宗和 (空気調和施設)
白石 均	赤星 文生	若宮 洋
永井 英輔	鉄谷 浩之	阿多 寛
齋藤 彰	加治屋 義信 (廃棄物管理計画)	梅田 龍夫
岡部 格	松尾 敏彦	上園 次生
花田 哲	河崎 信子 (農芸化学)	尾分 一政
松浦 和久	川窪 一郎	大政 康史
上之浦 浩二	上田 恒久	玉崎 俊栄
阿部 聖	栄徳 洋平 (農業土木)	義経 賢二
塚崎 芳和	木寺 佐和記	加藤 正明
	山本 実	宗 重孝
	沼尻 健次	廣瀬 峰生
	松尾 憲一	中川原 茂
		村上 伸
		宮津 高公
		吉岡 昌敏
		宇都 祐治
		前田 勉
		大崎 瞳男
		佐藤 充重
		(経営工学部門)
		(工場計画)
		(環境測定)
		(プロジェクト・ エジニアリング)
		(情報工学部門)
		(情報数理及び 統計)

平成13年度技術士第二次試験結果
(総合技術監理部門以外の19部門)

	全 国	福 岡
受験申込者数 (人)	41,758	3,513
受験者数 (人)	26,508	2,093
合格者数 (人)	4,304	325
対申込者合格率 (%)	10.3	9.2
対受験者合格率 (%)	16.2	15.5

★第二次試験 [総合技術監理部門] (平成14年3月7日発表)

<u>機械部門</u>	末松 正典	(産業機械)	山本 実	大里 信義	永吉 英昭
(機械加工及び 加工機)	(鉄道車両及び 自動車)	沼尻 健次		小柳 嗣雄	
高橋 孝誠	田辺 努	松尾 憲一	<u>化学部門</u>	川崎 卓	<u>建設部門</u>
是永 逸生 (精密機械)	(化学機械)	電気・電子部門	(セラミックス 及び無機化学)		(土質及び基礎)
	角田 正治	(電気設備)	金属部門 製品	前田 良刀	
			(金属加工)	木寺 佐和記	

岩本 直樹	宮崎 正和	河内 大明	吉竹 正致	<u>衛生工学部門</u>	<u>応用理学部門</u>
山田 孝治	福岡 辰義	力武 和夫	岩本 浩	(水質管理)	(物理及び化学)
久保川 孝俊	松浦 元哉	榎原 昭雄	吉川 智彦	川崎 軍治	江畠 賢一
市丸 博美	中島 義明	(道路)	房前 和朋	(空気調和施設)	(地質)
岡留 秀一	古閑 政秀	森 正明	堺 武志	長 孝良	菊池 淳一
田村 和嗣	上村 俊英	中村 宏	小島 義博	(廃棄物管理 計画)	中川 英朗
黛 廣志	野田 善治	幸 徹			竹原 哲郎
田上 裕	横尾 整司	前田 秀高	<u>水道部門</u>	井手 明彦	古閑 美津久
山本 芳裕	上野 雄一	佐々 典明	(上水道及び		西島 正範
(鋼構造及び コンクリート)	豊崎 貞治	市原 充之	<u>工業用水道</u>	<u>農業部門</u>	森本 嘉幸
鐘 廣喜	平山 登章	松本 幸雄	中西 新二	(農業土木)	飯島 康夫
山田 益司	北村 晴夫	小原 和憲	梁木 英寿	田淵 博文	宮崎 精介
橋本 晃	黒枝 秀吉	古谷 健	竹内 良治	秋野 義廣	葭谷 武司
荒木 映世	植田 薫	山下 康治	岩橋 英夫	渡邊 紘三	岩内 明子
小松 和彦	金 昌秀	内田 一成	藤岡 荘介	西元 勇	落合 文登
岸本 泰樹	宮本 修	(鉄道)	(下水道)		川瀬 浩之
高木 茂	鈴木 正美	本山 彰彦	坂ノ上 孝雄	<u>林業部門</u>	坂本 省吾
松本 一城	才田 進	今門 益雄	古橋 裕二	(森林土木)	上妻 瞳男
和多田 康男	古屋 慶一	(トンネル)	佐々木 安治	佐々木 紀	黒木 瑞昭
竹本 信司	稻津 謙治	山中 徹	阿部 静夫	安藤 篤仁	恒富 趟彦
武田 正紀	鬼塚 謙	河邊 信之	松尾 孝則		
入江 達雄	是枝 伸和	上林 武司	迫田 茂実	<u>経営工学部門</u>	<u>環境部門</u>
(都市及び 地方計画)	東島 隆三	佐藤 孝之	阿部 洋一	(包装及び物流)	(環境保全計画)
今林 顯二	磯脇 繁信	松原 章	前田 歳朗	山崎 康續	柴田 剛志
岸野 純一	梅原 曜也	満下 直紀	北澤 賢一	(プロジェクト・エ	(環境測定)
白鳥 寛	(港湾及び空港)	稻森 光洋	西内 康裕	ンジニアリング)	下津 義博
幡東 孝則	後藤 雅之	倉岡 豊	大島 徹矢	武居 博道	松本 克彦
満留 康裕	利光 俊勝	安藤 弘俊	川田 博見	<u>情報工学部門</u>	
阿部 孝治	大橋 義美	倉原 隆二		(情報応用)	
垣迫 裕俊	徳永 正憲	甘利 哲夫			
長谷川 直樹	三浦 一正	三谷 浩二	平山 公一		
(河川、砂防 及び海岸)	佐藤 秀輝	永山 克昭			
中矢 弘明	矢野 秀樹	日根 幸雄			
永矢 貴之	鶴島 郁之輔	松下 悅次			
(電力土木)	堤 拓也	上村 正人			
中島 隆信	大森 健二郎	(施工計画、施工			
兼安 勝介		設備及び積算)			
田中 豊		近江 秀味			
坂口 達也		若林 昭彦			
粕谷 晋一		(建設環境)			
		田野 裏一郎			
		奥 武之			
		松尾 景治			
		今井 昌之			

平成13年度技術士第二次試験結果

[総合技術監理部門]

	全国	福岡
受験申込者数 (人)	9,220	900
受験者数 (人)	7,944	773
合格者数 (人)	2,267	180
対申込者合格率 (%)	24.6	20.0
対受験者合格率 (%)	28.5	23.2

会員ニュース

☆(社)日本技術士会（九州支部）入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段:連絡先／下段:勤務先) 〈連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ〉
福岡	正会員	宇留島素之	建設	〒811-2201 粕屋郡志免町桜丘3-5-5 勤: 東亜建設九州支店 ☎(092)441-7325 FAX(092)411-1495
福岡	正会員	荒巻 太	建設	〒811-3106 古賀市日吉1-8-17 勤: 日本舗道㈱九州支店 ☎(092)771-0266 FAX(092)741-5364
福岡	正会員	橋村 賢次	建設	〒811-2107 粕屋郡宇美町とびたけ3-13-3 勤: 日本地研㈱ ☎(092)571-2864 FAX(092)571-2813
北九州	正会員	三原 誠	情報工学	〒807-0854 北九州市八幡西区泉ヶ浦2-16-21 勤: 技術士事務所アイコム ☎(092)602-8368 FAX(092)602-8379
北九州	準会員	佐藤 学	電気電子	〒825-0013 田川市中央町6-9-225 勤: 三井鉱山セメント㈱田川工場 ☎(0947)44-3146 FAX(0947)44-7892
宮崎	正会員	藤井 隆	建設	〒885-0113 都城市関之尾町6312-2 勤: (株)東方建設コンサルタント ☎(0986)37-0669 FAX(0986)24-2016
福岡	正会員	大内 正之	建設	〒811-3223 宗像郡福間町光陽台6-22-10 勤: 九研地質㈱ ☎(0940)43-0160 FAX(092)262-1461

☆九州技術士センター 入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段:連絡先／下段:勤務先) 〈連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ〉
福岡	正会員	稻元 勝彦	建設	〒818-0025 筑紫野市筑紫117-150 勤: 西技工業㈱土木部 ☎(092)711-8811 FAX(092)711-8842
宮崎	正会員	廣戸 俊夫	農業	〒889-1301 宮崎湯郡川南町川南13883-3-201号 勤: 九州農政局尾鈴農業 水利事業建設所 ☎(0983)27-7411 FAX(0983)27-7401
福岡	正会員	永川 勝久	応用理学	〒819-0001 福岡市西区小戸4-17-38-405 勤: 基礎地盤コンサルタンツ㈱九州支社 ☎(092)831-2511代 FAX(092)822-2393

☆会員連絡先（住所）および勤務先変更

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(変更)
福岡	正会員	木村 昭二	建設	勤: 〒814-0014 福岡市中央区平尾3-6-11 小島ビル3F （㈱計画技術コンサルタント） ☎(092)526-3637 FAX(092)526-3563
宮崎	正会員	大島 徹也	水道	連: 〒880-0844 宮崎市柳丸町81-1 ルグラン柳丸807号 ☎(0985)29-4704
大分	正会員	安藤 宇一	林業	勤: 〒870-0844 大分市古国府字内山1337-20 大分県林業会館内 （㈲大分県治山林道協会） ☎(097)545-2110 FAX(097)545-2127
福岡	正会員	福田 久弥	応用理学	連: 〒818-0053 筑紫野市天拝坂4-6-5 ☎(092)922-2938
福岡	正会員	原 茂恭	水道	勤: 〒755-0055 宇部市居能町1-5-33 中国水工㈱ ☎(0836)21-2141 FAX(0836)21-9238
鹿児島	正会員	谷下 公一	建設	勤: 〒890-0068 鹿児島市東郡元町17-15 大福コンサルタント㈱ ☎(099)251-7075 FAX(099)256-8534
福岡	正会員	荒川 直樹	建設	連: 〒810-0055 福岡市中央区清川2-13-2-905 アクロス天神 ☎(092)522-8761
福岡	正会員	山本 和幸	建設	連: 〒818-0054 筑紫野市大字杉塚410-20 ☎(092)928-7039
福岡	正会員	佐藤 幸甫	建設	連: 〒816-0082 春日市春日原北町4-24 ネオグランデー春日508 ☎(092)574-1587
福岡	正会員	服部 弘政	電気電子	連: 〒818-0121 太宰府市青山3-30-21 ☎(092)923-3180 勤(092)523-4121
福岡	正会員	曾加部眞也	建設	連: 〒814-0103 福岡市城南区鳥飼5-13-20 ☎(092)841-6181
北九州	正会員	清水 茂男	建設	連: 〒811-3217 宗像郡福間町1-16-6 パークハウス福間509号 ☎(0940)43-6915
北九州	正会員	川内 貞三	建設	連: 〒803-0972 北九州市小倉南区守恒3-1-2-404 勤: ㈱福山コンサルタント ☎(093)931-0211 FAX(093)931-1338
福岡	正会員	古川 博	建設	連: 〒819-0004 福岡市西区姪浜町68-6 ☎・FAX(092)882-4388

福岡	正会員	池田 昭弥 建 設 勤	勤: 〒810-0072 福岡市中央区長浜1-1-1-7 東亜建設技術㈱第2事業部	☎(092)724-6007 FAX(092)751-3048
長崎	正会員	杉野 光 衛生工学	連: 〒850-0041 長崎市浜平1-1-3-104 勤: ㈱九電工長崎支店	☎(095)841-7705 ☎(095)840-0810
福岡	正会員	讚井 親士 建 設	勤: 〒812-0017 福岡市博多区美野島2-5-17 吉弘ビル2F ㈱オーラス	☎(092)411-5730 FAX(092)411-5732
福岡	正会員	頼政 尚 農 業	上記に同じ	
鹿児島	正会員	黒岩 郁夫 農 業	勤: 〒890-0066 鹿児島市真砂町50-5 ㈱黒岩設計事務所	☎(099)256-9977 FAX(099)256-9978
福岡	正会員	高橋 健二 建 設	勤: 〒810-0005 福岡市中央区清川2-18-12 大産天神南ビル402 東洋測量設計㈱福岡支店	☎(092)523-4021 FAX(092)523-4028
福岡	正会員	寺地 守 建 設	勤: 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-10-7 九州地方整備局企画部広域計画課 ☎(092)471-6331㈹ FAX(092)476-3466	
熊本	正会員	織戸 邑俊 建 設	勤: 〒862-0910 熊本市健軍本町4-3 ㈱コンサルユニックス	☎(096)365-7565 FAX(096)369-0718
福岡	正会員	今村 瑞穂 建 設	勤: 〒818-0041 福岡市中央区大名2-4-12 ㈱建設技術研究所 九州支社 ☎(092)714-2211 FAX(092)711-8316	
中四国	準会員	山下 良久 建 設	連: 〒115-0045 東京都北区赤羽2-34-5-201 アイスハイツⅡ	☎(03)3598-1261
福岡	準会員	大邊 和馬 電気電子	連: 〒811-3219 宗像郡福間町西福間1-5-8	☎(0940)42-6642
福岡	正会員	濱 弘純 建 設	勤: 〒839-0841 久留米市御井旗崎1-3-4 ㈱タイヨー設計	☎(0942)41-1717 FAX(0942)41-1720
大分	準会員	吉武 寿志 農 業	勤: 〒870-0045 大分県速見郡日出町仁王山3531-24 大分県土地改良事業団体連合会技術部集合排水課	☎(097)536-6631 FAX(097)534-4338

平成14年度技術士第二次試験 総合技術監理部門の試験実施要項 〔広報委〕

3月始めに平成14年度技術士第二次試験の実施要領が発表になりました。ここでは今年が2年目の総合技術監理部門の試験についてお知らせします。

I. 受験申込み書等の配付、受付期間

配 付: 平成14年3月12日から

受付け: 平成14年4月1日(月)~12日(金)
(土曜日、日曜日を除く)

郵送の場合は、締切り日の消印のあるものまで受け付ける。

II. 試験期日

1. 筆記試験

選択科目: 平成14年8月28日(水)建設
平成14年8月29日(木)建設以外

必須科目: 平成14年10月14日(月)

2. 口頭試験(筆記試験合格者のみ)

平成14年12月上、中旬及び平成15年1月
中旬~2月上旬のうち1日。

III. 試験科目

1. 筆記試験

選択科目: 総合技術監理部門を除く技術部門の
必須科目及び選択科目

必須科目: ①安全管理に関する事項
②社会環境との調和に関する事項
③経済性(品質・コスト・生産性)
に関する事項
④情報管理に関する事項
⑤人的資源管理に関する事項
(一部択一式)

2. 口頭試験 適格性と高等の専門的応用能力。

IV. 試験の一部免除

総合技術監理部門以外のいずれかの技術部門の第二次試験に合格している者が、合格している技術部門に対応する選択科目で総合技術監理部門を受験する場合、試験科目のうち選択科目が免除される。

[注]試験科目の免除は来年度以降も継続されるが、二次試験受験の特別措置が今年度限りで、来年度からは一次試験合格者でないと二次試験は受験できなくなる。総合技術監理部門受験についても、一次試験合格が必要で、来年、この部門を受験するには、今年の一次試験に合格しておかなければならない。但しこの場合の一次試験の科目は「適正科目」のみで、他の3科目は免除される。

V. 筆記試験場(福岡)

東和大学工学部(福岡市南区)〔予定〕

VI. 受験手数料

14,000円

御協力いただいている 贊 助 会 員

〔福岡〕	九州環境技術研究所	九州特殊土木(株)
(株)久栄綜合コンサルタント	西日本技術開発(株)	大洋測量設計(株)
(株)建設環境研究所	(株)富士ピーエス	九州建設コンサルタント(株)
(株)唯設計事務所	日本技術開発(株)	西日本コンサルタント(株)
日本建設コンサルタント(株)九州支店	(株)ベクトル	南武測量設計(株)
中央開発(株)九州事業部	大和コンサル(株)	東洋測量設計(株)
(株)ダイヤコンサルタント西日本支社	アジアエンジニアリング(株)	九建設(株)
福岡支店	-----〔北九州〕-----	日進コンサルタント(株)
日本工営(株)福岡支店	日本航測(株)	ダイエーコンサルタント(株)
昭和地下工業(株)	(株)九州設計事務所	-----〔宮崎〕-----
第一復建(株)	九和設計(株)	(株)弓場水工コンサルタント
(株)松本組	(株)押川測量設計	(株)ロードリバーコンサルタント
(株)エスケイエンジニアリング	(株)都市開発コンサルタント	(株)ケイディエム
(株)東亜コンサルタント	九州テクノリサーチ(株)	(株)親協
(株)福山コンサルタント	(株)松尾設計	南日本総合コンサルタント(株)
(株)東京建設コンサルタント九州支店	(株)酒見設計	(株)宮崎産業開発
東亜建設技術(株)	(株)太平設計	(株)西田技術開発コンサルタント
精巧エンジニアリング(株)福岡支店	冷牟田設計コンサルタント(株)	(株)共和コンサルタント
東邦地下工機(株)	山九(株)鉄鋼事業本部鉄鋼技術部	(有)福島測量設計調査事務所
大成ジオテック(株)	(株)安川電機	九州工営(株)
富洋設計(株)九州支社	(株)中村測建事務所	(有)久保測量設計コンサルタント
九州建設コンサルタント(株)福岡支店	-----〔佐賀〕-----	正栄技術コンサルタント(株)
日本海洋コンサルタント(株)	(株)精工コンサルタント	(株)東九州コンサルタント
九州事務所	新九州測量設計(株)	(有)日豊測量設計事務所
(株)サンコンサル	日本建設技術(株)	日測コンサルタント(株)
芳野測量設計(株)	(株)九州構造設計	(株)水理設計
(株)橋梁コンサルタント福岡支社	新栄地研(株)	(株)ダイワコンサルタント
(株)アイ・エヌ・エー九州支社	九州技術開発(株)	(株)杉田測量設計コンサルタント
(株)九州地質コンサルタント	-----〔長崎〕-----	(株)ジオセンターM
(株)タイヨー設計	大栄開発(株)	(株)都南開発コンサルタント
日鉄鉱コンサルタント(株)九州支店	(株)実光測量設計	(株)アップス
(株)大建	西日本菱重興産(株)	(有)カツキ技術士事務所
(株)エム・ケー・コンサルタント	大洋技研(株)	(株)共同技術コンサルタント
(株)エス・ピー・エンジニアリング	(株)親和テクノ	(株)国土開発コンサルタント
(株)アジア建設コンサルタント	扇精光(株)	-----〔鹿児島〕-----
新地研工業(株)	西海地研(株)	中央テクノ(株)
(株)カミナガ	(株)新栄設計事務所	朝日開発コンサルタント(株)
(株)構造技術センター	-----〔熊本〕-----	小牧建設(株)
平和測量設計(株)	(株)九州開発エンジニアリング	(株)久永コンサルタント
基礎地盤コンサルタント(株)九州支社	アジアプランニング(株)	コーツ工業(株)
(株)高崎総合コンサルタント	-----〔大分〕-----	大協(株)
西日本コントラクト(株)	佐伯調査測量設計(株)	新和技術コンサルタント(株)
西鉄シーアイコンサルタント(株)	松本技術コンサルタント(株)	(株)中村測量設計
町田電気管理・技術士事務所	協同エンジニアリング(株)	(株)日峰測地
日本地研(株)	(株)日建コンサルタント	(株)大紀造園設計事務所
第一設計(株)	東亜コンサルタント(株)	(株)建設技術コンサルタント
	(株)テクノコンサルタント	

お知らせ

技術士CPD(継続教育)ガイドブック (付録)CPD記録簿(LOGBOOK)・業務記録簿 が出ました

昨年4月、技術士法が改正、施行されて、技術士は常に自己の資質向上の責務を持つことになり、CPD (Continuing Professional Development) がスタートし、平成14年4月から実績登録が実施されることになりました。

日本技術士会では、今までにもいろいろ試案を出してきましたが、この1月に技術士がCPDを行うためのガイドラインをまとめた決定版を、「CPD

(継続教育)ガイドブック(第1版)」として出しました。A4判26ページで、これには、CPDの課題とその区分、研修方法、形態と時間重み係数などが示されています。

また、「CPD記録簿(LOGBOOK)及び業務記録簿(2002年版)」が付録として添付されていて、これには技術士各自がCPDと業務の実績を記録するフォーマットと記入要領がまとめられています。

価格は1部500円。申し込みは各地区代表幹事、又は九州支部まで。郵送希望の場合は、500円の定額小為替証書(郵便局で購入)と、200円切手を貼り送付先住所氏名を記入した封筒(角形2号)を、九州支部宛に送付してください。
(広報委)

会誌“技術士”最近の主要目次

平成13年12月号

- ・卷頭言 技術士と技術者認定制度に期待する／深尾正
- ・地球温暖化対策とフロン／三好 正夫
- ・東欧・北欧における包装技術の現況／茂木幸夫
- ・高純度ガス用配管材料とその配管施工技術／板垣 純司ほか
- ・旅客船用個別式二等座席室の提案／福谷光雄
- ・ノーベル化学賞と化学技術者／湖上国雄
- ・技術士・修習技術者制度の動向と課題／岩熊まき
- ・第2回技術士補・修習技術者研究発表大会報告
- ・第3回APECエンジニア調整委員会会議報告

平成14年1月号

- ・卷頭言 激動の21世紀幕開け／佐藤清
- ・機能色素を用いるガン治療／坂本恵一
- ・国際入札仕様書作成の要点／本岡昇
- ・第14回修習技術者セミナーを終えて／滝澤嘉史
- ・タイでのJICAプロジェクト推進体験記／小林良生
- ・燃料電池コジェネレーションシステムの住宅への導入と最適化計画／小原伸哉
- ・「日中往来」上海の住宅事情／黄弘明・山田俊満

平成14年2月号

- ・卷頭言 産業社会のグローバル化と技術者資格制度／正田英介
- ・エンジンの中空弁／白柳伊佐雄
- ・アクセシビリティの扉を開く／丑田俊二
- ・2001年ITの旅／本田和幸

編集後記

平成13年度の技術士一次・二次試験合格者が発表になりました。なかでも総合技術監理部門は今年が初めての合格者です。例年になくたくさん若い新進気鋭の技術士誕生を祝うとともに、働き盛りの熟練技術士のより広い奥深い視野に立った活躍を期待したいと思います。おめでとうございました。

また、平成14年度の技術士第二次試験の要綱が発表されました。“実務経験7年以上で受験できる特例”は今年度限りで廃止され、平成15年4月1日以降は、第一次試験に合格し4年間実務経験習得をした修習技術者でないと、第二次試験は受験できなくなります。従来制度の最後の第二次試験です。受験希望の方々にはラストチャンスを是非ものにしていただけるよう祈っています。

昨年4月の技術士法の改正が、いよいよ実感される時の流れではないでしょうか。
(完戸)

発行：(株)日本技術士会九州支部
九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎(092)432-4441
FAX(092)432-4442

E-mail : engineer@joho-fukuoka.or.jp
九州支部ホームページ URL :

http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer
センター：☎/FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社